

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																	
日本電子専門学校	昭和51年9月10日	船山 世界	〒 169-8522 (住所) 東京都新宿区百人町一丁目25番4号 (電話) 03-3363-7761																	
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																	
学校法人電子学園	昭和38年12月17日	多 忠貴	〒 169-8522 (住所) 東京都新宿区百人町一丁目25番4号 (電話) 03-3363-7761																	
分野	認定課程名	認定学科名	専任士認定年度	高度専任士認定年度	職業実践専門課程認定年度															
工業	工業専門課程	グラフィックデザイン科	平成18(2006)年度	-	平成26(2014)年度															
学科の目的	グラフィックデザインの制作において、ワークフロー全体が理解でき、依頼者(以下クライアント)の要望に応じた効果的な提案を、紙媒体、電子媒体問わず幅広く対応できると共に、豊かな想像力とコミュニケーション能力を兼ね備えた、実社会で即戦力として活躍できるデザイナーを育成する。																			
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	【取得可能な資格】 文部科学省後援色検定/情報デザイン試験初級/Adobe Certified Professional 【在学状況】 令和5年4月1日時点において、在学者62名(令和5年4月1日入学者を含む) 令和6年3月31日時点において、在学者56名(令和6年3月31日卒業生を含む)																			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技													
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 1,740 単位時間	360 単位時間	120 単位時間	1,260 単位時間	単位時間	単位時間													
生徒総定員	生徒実員(A)	留學生数(生徒実員の内数)(B)	留學生割合(B/A)	中退率																
60人	69人	11人	16%	10%																
就職等の状況	■卒業生数(C) 25人																			
	■就職希望者数(D) 24人																			
	■就職者数(E) 24人																			
	■地元就職者数(F) 24人																			
	■就職率(E/D) 100%																			
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) 100%																			
	■卒業生に占める就職者の割合(E/C) 96%																			
	■進学者数 0人																			
	■その他																			
	就職指導の体制は、キャリアセンターが、業界の求人獲得に努め、合同企業説明会や校内入社試験を実施している。各クラス担当のキャリアサポーターとクラス担任を中心とした、組織的な学生指導体制による就職指導を行っている。 (令和5年度卒業生に関する令和6年5月1日時点の情報)																			
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:有 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 特定非営利活動法人 職業教育評価機構 受審年月: 令和5年3月31日 評価結果を掲載したホームページURL: <a href="https://www.jec.ac.jp/school-outline/disclose/third-party-evaluation/">https://www.jec.ac.jp/school-outline/disclose/third-party-evaluation/</a>																			
	当該学科のホームページURL: <a href="https://www.jec.ac.jp/course/design/ag/">https://www.jec.ac.jp/course/design/ag/</a>																			
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)																			
	<table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>1,740 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>120 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>1,740 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>120 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table>							総授業時数	1,740 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	120 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間	うち必修授業時数	1,740 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	120 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)
総授業時数	1,740 単位時間																			
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	120 単位時間																			
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間																			
うち必修授業時数	1,740 単位時間																			
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	120 単位時間																			
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間																			
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																			
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(B: 単位数による算定)																			
	<table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位</td></tr> </table>							総授業時数	単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位	うち必修授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)
総授業時数	単位																			
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位																			
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位																			
うち必修授業時数	単位																			
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位																			
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位																			
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位																			
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号) 0人																			
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号) 2人																			
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号) 0人																			
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号) 1人																			
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号) 0人																			
	計 3人																			
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数 1人																				

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会は、卒業生の就業先の業界における人材の専門性に関する動向、国または地域の産業振興の方向性、新産業の成長に伴い新たに必要となる実務に関する知識、技術、技能などを十分に把握、分析した上で、本校の専門課程の教育を施すにふさわしい授業科目の開設または授業内容・方法の改善・工夫等を行うなど、専攻分野に関する企業、関係施設、関係団体等の要請等を十分に活かしつつ実践的かつ専門的な職業教育を主体的に実施するための検討課題を協議・検討することを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育の管理部署(教育部、教務部)と各学科に対して中立的な位置付けとし、実践的な教育を行うために、経営や教育現場からの制約を受けない自由な検討が行えるものとする。

尚、教育課程の編成については、以下の過程に基づいて決定する。

- ① 学科教員により、今後の教育課程について検討し改善案を作成する。
- ② 教育課程編成委員会にて、学科からの改善案について各委員の専門的知見に基づく意見を伺う。
- ③ 教育課程編成委員会での意見を踏まえ、学科長及び教育部長を中心に最終案を作成し、校長の決裁で決定する。
- ④ 次の教育課程編成委員会にて、最終決定した教育課程を各委員へ報告する。

上記の教育課程を決定する過程については、学校関係者評価委員会においても報告・評価の対象とする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
溝川 誠司	公益社団法人 日本広告制作協会 理事	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	①
吉沢 優行	有限会社セネカ 取締役	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	③
田代 宏之	株式会社電通クリエイティブX エグゼクティブプロデューサー	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	③
船山 世界	日本電子専門学校 校長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	
杉浦 敦司	日本電子専門学校 副校長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	
五十嵐 淳之	日本電子専門学校 クリエイター教育 部長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	
高橋 陽介	日本電子専門学校 学事部 部長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	
井上 直樹	日本電子専門学校 キャリアセンター センター長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	
植田 誠一	日本電子専門学校 グラフィックデザイン科 学科長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

委員会は、原則として学期の切り替え時期(9月)及び、年度末(3月)の年2回は、必ず開催する。また、業界動向の変化や学科の状況等により、必要性に応じて適宜開催する。

(開催日時(実績))

第1回 令和5年9月7日 10:00～12:00 開催

第2回 令和6年2月29日 10:00～12:00 開催

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

【議題1】

本科1年次のクリエイティブスキルの定義に関して実務に則したクライアントベースの制作スキルが重要なのは大前提として、それに加えて、ある程度自由な発想のもと制作するアーティスト的な面からもクリエイティブ力の強化をしたい。

(1)改めて、クリエイティブスキルとは何かを学科で議論し、以下の5つの要素をクリエイティブスキルと定義した。

- ① ものを見る力(観察力、客観的視点)
- ② ブラッシュアップ(探求心、内省力)
- ③ 生み出す力(問いを立てる)
- ④ ユーザー視点(アート志向)
- ⑤ 作り出す力(造形力)

(2)1年次科目それぞれの内容や特性を考慮しながら、クリエイティブスキルの強化に資すると考えられる科目を各要素に紐づけた。  
(★…新たに紐づけた科目)

- ① ものを見る力(観察力、客観的視点)  
→ デッサンⅠ・Ⅱ(★)
- ② ブラッシュアップ(探求心、内省力)  
→ レイアウト概論(★)
- ③ 生み出す力(問いを立てる)  
→ インタラクティブデザイン / プランニング / フィールドサーベイ(★)
- ④ ユーザー視点(アート志向)  
→ 広告デザイン / 進級制作(★)
- ⑤ 作り出す力(造形力)  
→ 基礎デザイン演習(★)

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

グラフィックデザイン業界で活躍できる人材育成のため、デザイン関連企業から課題の提示を受け、その課題テーマに沿って、下記の①～③を踏まえた実習を教育課程に位置付けることを基本方針とする。

- ① デザイン企業における作品制作のワークフローに関する知識・技術習得を目的とした実習。
- ② 最新の電子媒体(デジタルサイネージ、スマートデバイス)の特徴を活かした広告デザイン制作に関する実習。
- ③ コミュニケーション能力を養う目的で、連携企業に対するプレゼンテーション(企画提案・作品完成報告など)を毎学期実施。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

連携している企業から課題に関するオリエンテーションを受け、企業の課題を選択、その課題制作に取り組む。制作過程の時期に応じて、学生は企画、制作、プレゼンテーションを行い、その都度企業から指導、アドバイスを受ける。学期末の進級制作展示会において、企業から最優秀作品が選出され、評価を受ける。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
進級制作	デザイン企業から制作課題に関するオリエンテーションを受け、企業からの課題を選択して様々な媒体の特徴を活かした制作に取り組む。そして、デザイン制作のワークフローに沿った形式で、企画提案、企画発表・中間プレゼンテーション・最終プレゼンテーションを行い、その都度連携企業から指導を受ける。 また、連携企業より、企画、進捗状況、作品の出来具合、プレゼンテーション等の観点から評価を受ける。学期末の進級制作展示会においては、連携企業の投票により最優秀作品が選出される。	(株)ジェイスリー (株)スロウ (株)帆風 (株)D2C R

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教育課程編成委員会での意見やグラフィックデザイン業界の動向などを踏まえて、現在教員に不足している知識、技術、技能に関する①～③等の研修を研修規定に則って行う。

- ① エディトリアルデザイン、インタラクティブデザイン、デジタルイラストレーションなど、デザイン制作のワークフローのなかで必要となる知識、技術、技能に関する研修。
- ② デジタルサイネージやスマートデバイスなど最新の電子媒体を用いた広告手法に関する知識、技術、技能に関する研修。
- ③ 変化する学生(気質)に対応し、学生の学習意欲を高めるような、キャリアサポートや体験学習(ファシリテーションスキル)等の教育的資質に関する研修。

## (2) 研修等の実績

### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	Xデザイン学校 ソーシャルイノベーション研究会	連携企業等:	日本デザイン学会
期間:	令和5年5月30日～9月11日	対象:	学科教員
内容:	これからの社会やビジネスを考える上で、ソーシャルイノベーションについて、問題解決だけでなく新しいアプローチが必要になっています。ソーシャルイノベーションとサステナビリティに関するリーダーであるエツィオ・マンズーニの最新書籍「Livable Proximity」を参考にして、これからのソーシャルイノベーションについて学び、深めていきます。本研究会では、こちよい近さ、ケアのあるまち、都市と地域、これからのデザインとプラットフォーム、デジタル活用なども追求していきます。		
研修名:	Xデザイン学校公開講座:創造力とムナーリ・メソッド	連携企業等:	日本デザイン学会
期間:	令和5年6月7日	対象:	学科教員
内容:	1977年にミラノのブレラ美術館で子供のアート教育のラボラトリーで始めた、ムナーリ・メソッドを、多木陽介氏により解説いただくワークショップ研修。近年は、クリエイティビティや創造性についての重要性が語られることが多くなってきており、このような背景で、ブルーノ・ムナーリの作品やアプローチは創造性という視点で注目されています。		
研修名:	日本デザイン学会第70回春季研究発表大会	連携企業等:	日本デザイン学会
期間:	令和5年6月24日、6月25日	対象:	学科教員
内容:	学びのデザインをテーマとした種々の研究発表の見聞。ポスター発表。		
研修名:	アジア基礎造形連合学会2023札幌大会 第34回日本基礎造形学会札幌大会	連携企業等:	アジア基礎造形連合学会 日本基礎造形学会
期間:	令和5年8月31日～9月3日	対象:	学科教員
内容:	令和5年度の研究大会はアジア基礎造形連合学会との同時開催。谷口文保氏、尹智博氏、金呈起氏、李元坤氏、陳光大氏、王照明氏、LUO Baoquan氏の7名のシンポジストによる「アフターコロナ時代における基礎とは何か」をテーマに基礎造形の基礎について講演。作品展示やポスターセッションの実施。		
研修名:	展示学講座	連携企業等:	日本展示学会
期間:	令和5年11月24日、11月25日	対象:	学科教員
内容:	デジタル時代の展示について学ぶ講座とワークショップ。博物館法の改正に伴う、文化資源の保存活用に関する鑑賞、体験モデルの検討が重視されています。また、リアルとバーチャルといった展示手法の模索も検討されており、こうしたテーマについて新しい時代の展示の在り方について検討する講座です。		
研修名:	MeMeデザイン学校ブックデザインコース「場としての本を考える」	連携企業等:	MeMeデザイン学校
期間:	令和5年11月25日	対象:	学科教員
内容:	エディトリアルデザイン、ブックデザインを中心とした実践的な講座です。単行本や写真集、詩集や雑誌など、具体的なテーマでデザインを学びます。		
② 指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	「教授法研修」	連携企業等:	株式会社ビーフォーシー
期間:	令和5年8月3・10日	対象:	新人教員
内容:	授業を実施する上で、その前提となる授業設計等に関する知識を体系的に学ぶ。科目内容の見直しやシラバス作成における授業設計に関する知識技能を修得する。		
研修名:	「インストラクショナルデザイン研修」	連携企業等:	株式会社ウチダ人材開発センタ
期間:	令和5年8月22日	対象:	新人教員
内容:	授業を実施する上で、その前提となる授業設計等に関する知識を体系的に学ぶ。科目内容の見直しやシラバス作成における授業設計に関する知識技能を修得する。		
研修名:	「アカデミックハラスメント」	連携企業等:	名川・岡村法律事務所
期間:	令和5年9月1日	対象:	全教員
内容:	学生に対するハラスメントと実際の裁判例から学ぶハラスメントの具体例		

研修名:	「高等教育における ChatGPTなど生成AI の活用」	連携企業等:	専門学校コンソーシアムTokyo
期間:	令和5年9月14日	対象:	全教員
内容	高等教育における生成AIの活用方法と事例について		
研修名:	「心理的課題を抱える学生の初期対応」	連携企業等:	専門学校コンソーシアムTokyo
期間:	令和6年3月26日	対象:	全教員
内容	心理的課題を抱えた学生の初期対応をテーマに、対応方法を事例を交えて実践的に学習する。		
<b>(3) 研修等の計画</b>			
<b>①専攻分野における実務に関する研修等</b>			
研修名:	本づくり学校 基礎科	連携企業等:	一般社団法人本づくり協会
期間:	令和6年4月13日～令和7年2月8日	対象:	学科教員
内容	自身の力で『本づくり』ができる経験をつむ一年を目指し、コンテンツから自身で考案・編集し、世界に1つだけの本をつくります。活版印刷の講義・実習や上製本・和綴じ・フランス装・蛇腹製本など基本的な製本技術を習得します。		
研修名:	放送大学博士後期課程 情報学プログラム2024年度	連携企業等:	放送大学
期間:	令和6年4月13日～令和7年3月31日	対象:	学科教員
内容	2024年4月1日～2027年3月31日(3年間)の期間において、放送大学大学博士後期課程にて情報学(情報デザイン)に関する研究を行い、博士論文「思考プロセスを支援する視覚的思考ツールの特性と有効性」の完成を目指す。 初年度となる2024年は、「情報学特論」「研究法」等の情報デザインに関連する基盤研究を学び、「特定研究」にて自身の研究テーマの指導を受け深めていく。		
研修名:	日本デザイン学会第71回春季研究発表大会	連携企業等:	日本デザイン学会
期間:	令和6年6月21日～6月23日	対象:	学科教員
内容	テーマ: 情報環境のデザイン インターネットの普及、AIの本格稼働など、目まぐるしく変化する情報環境において、情報の氾濫、漏洩、誹謗中傷、フェイク等、「情報災害」とも言える様々な問題が発生しています。制御不能な情報が氾濫する社会で、デザイナーにできることは何か。情報インフラ(ハード)とコンテンツ(ソフト)の両面から議論を深める。		
研修名:	第35回日本基礎造形学会長崎大会	連携企業等:	日本基礎造形学会
期間:	令和6年8月24日、8月25日	対象:	学科教員
内容	今回の大会テーマは「暮らしの豊かさと基礎造形」です。24日の基調講演は、長崎伝統工芸「長崎風(ハタ)」の継承者である小川暁博氏と、400年の歴史をもつ「長崎ガラス」の技を継承する竹田克人氏をお迎えした、長崎の暮らしの中で息づく造形デザインについて見識を広める。その後、ポスター発表、ギャラリートークを行い、翌日の25日(日)は口頭発表が開催される。作品発表は、8月23日(金)～8月25日(日)の3日間で一般公開の予定です。		
研修名:	TOKYO CREATIVE COLLECTION	連携企業等:	(株)ViViViT
期間:	令和6年9月10日	対象:	学科教員
内容	日本中のデザイン実践家たちが最先端の知恵と技を持ち寄り、つながる、デザイン・エキシビジョン。テーマは「競争力を共創する」シンポジウムとエキシビジョンが多数行われる。 本イベントは、日本中のデザイナーやクリエイティブな人々が試行錯誤から生まれた知恵や技術、組織内の有益なナレッジ、未来を示唆するエクスペリエンスを持ち寄り、集結されるもので、世界でも類を見ない実践的なデザインに出会える機会になっている。		
<b>②指導力の修得・向上のための研修等</b>			
研修名:	「教授法研修」	連携企業等:	株式会社ビーフォーシー
期間:	令和6年8月7・9日	対象:	新人教員
内容	授業を実施する上で、その前提となる授業設計等に関する知識を体系的に学ぶ。科目内容の見直しやシラバス作成における授業設計に関する知識技能を修得する。		
研修名:	「インストラクショナルデザイン研修」	連携企業等:	株式会社ウチダ人材開発センタ
期間:	令和6年8月20日	対象:	新人教員
内容	授業を実施する上で、その前提となる授業設計等に関する知識を体系的に学ぶ。科目内容の見直しやシラバス作成における授業設計に関する知識技能を修得する。		

研修名: 「休退学防止策」	連携企業等: 株式会社WENESS
期間: 令和6年8月29日	対象: 全教員
内容: 理論的根拠と実践例を基に、休退学者を出さない基盤づくりを学習する。	

研修名: 「多層化する専門学校生を読み解く」	連携企業等: 専門学校コンソーシアムTokyo
期間: 令和6年9月19日	対象: 全教員
内容: 専門学校の入学者層データを基に、休退学防止策を検討する。	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針  
 学校関係者評価の基本方針を記載(昨年度の同項目と同様に記載)  
 本校では、卒業生、保護者、高等学校教員、デザイン関係団体、地域住民、グラフィックデザイン企業等、本校の関係者を評価委員として、学校関係者評価委員会(以下、評価委員会)を組織する。評価委員会では、本校の自己評価報告書にもとづき、学校の運営状況やグラフィックデザイン科の教育状況、目標達成度、進路の状況、卒業生の産業界での活躍等、教育活動に関する自己評価結果を報告する。評価委員より、自己評価結果の評価を受け、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、グラフィックデザイン科への理解促進や連携協力による今後の運営や教育の改善を図ることを基本方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	理念・目的・育人人材像の周知、職業教育の特色、将来構想、学科教育目標
(2) 学校運営	運営方針、事業計画、組織・意思決定機能、人事規程、教育活動の成果公開、情報システム化
(3) 教育活動	教育目標・育人人材像、教育達成レベル、実践的なカリキュラム、業界関連科目目標、キャリア教育、授業評価、職業教育、教員確保・育成、成績・単位基準、資格指導体制
(4) 学修成果	就職率、資格取得、ドロップアウト対策、卒業生・在校生の活躍、キャリア形成と教育改善
(5) 学生支援	就職指導体制、学生相談体制、学費支援体制、学生生活・健康管理、課外活動支援、父母会、卒業生支援、関連分野と業界関係
(6) 教育環境	施設設備環境の維持・向上、学外実習・インターンシップ・海外研修体制、防災訓練
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動、教育成果の公表、入学選考、学納金、資格・就職情報公開
(8) 財務	中・長期財務計画、予算・決算・収支計画、定期的な会計監査、事業(財務)情報公開
(9) 法令等の遵守	法令・設置基準の遵守、個人情報保護、自己点検・評価、自己評価・第三者評価の公開
(10) 社会貢献・地域貢献	学校施設の教育資源の貢献、学生ボランティア活動支援
(11) 国際交流	留学生の受け入れ戦略、留学生の在籍管理と手続き、留学生の学修・生活支援体制、学習成果の発表

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況  
 様々な地域において、地震や豪雨などの災害が発生しており、多くの人が集まる学校においては「防災」に対する意識をこれまで以上に高める必要があるとの指摘を受け、次の対応を行った。  
 春季研究会(全教職員参加)にて、新宿消防署による「職場における震災時の対応」というテーマでオンライン防災訓練を開催した。また、『危機管理マニュアル』を更新し周知徹底を図るなど、「防災」への意識を高める取組みを行った。

## (4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
鈴木 周祐	株式会社ぴえろ	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	企業
後藤 宗亮	株式会社ファンコーポレーション	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	企業
木下 幸弘	株式会社ジェイスリー	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	企業
渡邊 登	合同会社ワタナベ技研	令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	企業
相原 弘明	ストーンビートセキュリティ株式会社	令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	企業
伊藤 好宏	JTP株式会社	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	企業
舟山 大器	一般社団法人 日本PVプランナー協会	令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	職能団体
篠原 たかこ	CG-ARTS 公益財団法人画像情報教育振興協会	令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	職能団体
満岡 秀一	一般社団法人 IT職業能力支援機構	令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	職能団体
原 洋一	一般社団法人ソフトウェア協会	令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	職能団体
米井 翔	一般社団法人組込みシステム技術協会	令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	職能団体
西郷 直紀	東京商工会議所新宿支部	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日	職能団体
品田 健	聖徳学園中学・高等学校	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	高校教員等
横田 えりか	株式会社ウィザス	令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	高校教員等
亀田 亜矢子	東京ギャラクシー日本語学校	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	日本語学校
谷 伸城	株式会社アプリケーションプロダクト	令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	卒業生
中山 秀昭		令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	卒業生
原田 識義	百人町西町会	令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	地域住民
高橋 美登里		令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	保護者
岸本 美香		令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	保護者
岡本 忠司		令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	保護者
福田 るあ		令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	在学生
渡邊 紗羽		令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	在学生
江藤 海羽		令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	在学生
下園 紗月		令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	在学生
森下 晴紀		令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	在学生
岩永 礼矢		令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	在学生
蔡 ダウム		令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	在学生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

## (5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL: <https://www.jec.ac.jp/school-outline/disclose/stakeholder-assessment/>

公表時期: 毎年10月1日に更新

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

理念・育人人材像といった教育的目標から施設設備・財務状況といった学校運営に至るまでの情報をホームページや入学案内書などの冊子に掲載するとともに、グラフィックデザイン科の教育成果発表として、学園祭での学科出展を行う。また、ホームページ上の学科ニュースで学科の取り組みを広く公開する。これらを通して、在校生・保護者、高等学校、卒業生が活躍する企業・業界、学校近隣の住民など、関係者の理解を深め、連携及び協力の促進に資するために、積極的に情報を提供することを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	本校について、教育理念、校長名、沿革
(2) 各学科等の教育	学科紹介、カリキュラム、時間割
(3) 教職員	組織図、教職員人数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	教育の仕組み、キャリア教育、産学連携
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、エクステンションプログラム、施設
(6) 学生の生活支援	就職サポート、学生寮
(7) 学生納付金・修学支援	学費サポート、納付金・時期、独自の奨学金制度
(8) 学校の財務	貸借対照表、資金・消費収支計算書
(9) 学校評価	自己点検評価、学校関係者評価、第三者評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

URL : <https://www.jec.ac.jp/>

公表時期 : 毎年4月に更新

授業科目等の概要

(工業専門課程 グラフィックデザイン科) 令和6年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			デザイン概論	デザインの歴史や過去のグラフィックデザインの作品、人物、用途、手法など、デザインに関する基本的かつ必須の知識について学習し、個々の作品制作に役立てます。	1前	30		○			○		○	
2	○			基礎デザイン演習	デザインをする上で必要となる基本的な表現方法について、平面構成を中心に演習を交えて学習します。	1前	60		△	○		○		○	
3	○			写真入門	カメラの使い方、写真撮影に関する基本的な知識を学ぶとともに、広告媒体への展開を目的とした効果的な写真の扱い方を学習します。実際にどのように撮影すれば写真が広告の中で効果を上げられるのかなど、実習を通して学びます。	1前	30		○			○			○
4	○			色彩検定講座	色彩検定に対応した授業で、ビジュアル表現における色の役割や、色彩に関する基礎的な知識を学習します。色が人間の感情に与える効果を実際の作品制作を通して学びます。	1前	30		○	△		○		○	
5	○			視覚デザイン発想法Ⅰ	視覚デザインに関わる発想にオリジナリティを発揮させるための具体的な手法について検討し、独自の手法を作り出すことがオリジナリティ創出のために必要不可欠であることを、実習を通して学びます。	1前	30		△	○		○			○
6	○			視覚デザイン発想法Ⅱ	視覚デザインに関わる表現の問題について、視覚デザイン発想法Ⅰで行った基礎的な発想方法を基にした上で、より多面的なもの見方や、情報の解釈など、視覚デザインのリテラシーについて実習を通じて学びます。特にデザイン表現の独自性についての理解を深めていく中で、各自がオリジナルな発想を生み出していける力をつけることを主眼とします。	1後	30		△	○		○			○
7	○			デッサンⅠ	作品を制作する上で必要となる物の見方や捉え方を、単純なモチーフを使ったデッサンやクロッキー、パースの取り方などを通して学びます。構図、立体感、質感、色みについて学びます。	1前	60					○	○		○
8	○			デッサンⅡ	デッサンⅠでの習得を踏まえ、複雑なモチーフの描写や頭の中にあるアイディアを形にし、幅広い表現を目指します。イラストレーションとの関連性も制作を通して研究します。	1後	60					○	○		○

9	○		フィールド サーベイ	情報が氾濫する現代、その情報を人にわかりやすく伝えるにはどうしたら良いのか、その手法の一つ、調査手法を学習します。実際に街を歩くことで得られる情報を調査・検証し、様々な方法で結論を導き出せるよう学習を進めます。デザインの潮流を知るために外部展の見学等を実施します。	1 前	30		○	△		○	○	○					
10	○		情報デザイン I	新聞や雑誌でもニーズが増えているインフォグラフィックスについて学びます。情報を整理、分析し可視化する手法を身につけます。	1 後	30		○	△		○		○					
11	○		情報デザイン II	ユニバーサルデザインをキーワードに、情報を利用する人の立場や視線を意識した情報提供の手法を学びます。さらにコミュニケーションデザインとしてのツールをデザインします。情報デザイン試験初級の資格取得を目指します。	2 前	60		△			○	○	○	○				
12	○		イラストレ ーション	制作の上での基礎的な画材や紙の扱いを実際の画材を使用して学習し、作品を制作します。またイラストレーションとして様々な技法の中から効果的な技法を抽出し、オリジナリティの高い作品制作を目指します。制作を通じ現代社会でのイラストレーションの役割について学びます。	2 前	60					○	○		○				
13	○		デザイン法規	デザイン業界において不可欠な知識である知的財産権、個人情報保護法などについて学びます。特に著作権については作り手としての社会的責任のある作品制作が行えるように詳しく扱います。	2 後	30		○				○					○	
14	○		グラフィック デザイン	制作に必要なソフトウェアの特性や基本的なオペレーションを理解し、実務として使用できるよう基本的な知識やガイドラインを学習しながら、ポスターやチラシなど、実際に様々な制作物に反映します。 (使用ソフト: AdobeIllustrator、Photoshop)	1 前	120					○	○		○	○			
15	○		レイアウト概 論	雑誌やポスターなど、レイアウト時のルールや手法、文字組みや文字に関する知識、写真を扱う上での知識、情報のまとめ方などを学びます。	1 前	30		○	△		○			○				
16	○		進級制作	実際の企業から発注を受け、オリエンテーションから企画、制作、プレゼンテーションまでの一連の流れを学習します。企画提案、発表を経て、企業の方からアドバイスを受けながら作品の制作を行います。最終的に企業の方にプレゼンテーションを行い、評価をいただきます。	1 後	120		△			○	○	○	○	○	○	○	
17	○		エディトリアル デザインA	DTP、印刷における基礎的な知識の修得に始まり、雑誌の見開きレイアウトの考え方など実際のものを見ながら解説し、それを実践していくことでレイアウトの考え方やスキルを身につけます。	1 後	30					○	○		○				
18	○		エディトリアル デザインB	雑誌やカタログなど紙面のデザインを中心に、構成する能力を身につけます。企画や取材などにも力を入れ、編集全般について学びます。	2 前	30					○	○		○	○			
19	○		DTP概論 I	DTPに関する基礎的な知識から、あらゆる印刷物の出力方法に至るまで、印刷工程の原理や仕組みなどを学習します。	2 前	30		○			○						○	



30	○	卒業制作	2年間の学習の中から得た技術の総まとめを行います。問題解決の観点から、マーケティング、プランニングを意識した上で、グラフィックデザイン分野、エディトリアルデザイン分野、インタラクティブデザイン分野等、学習した技術・知識を活かし作品の制作を行います。	2後	150	△	○	○	○	○	○		
31	○	Webデザイン制作 I	HTMLタグを理解し、基本的なwebサイトの構造を理解します。サイト作成ソフトであるDreamweaverのオペレーションも習得します。(使用ソフト: Dreamweaver)	1前	30		○	○		○	○		
32	○	Webデザイン制作 II	Dreamweaverを使用して、デザインコンセプトに合った実用的なwebサイトの作成に取り組みます。デザインにおいて、幅広い企画力が求められる昨今、webサイトの制作も含めて、クライアントのニーズに対応できる展開力を身に付けます。	1後	30		○	○		○	○		
33	○	UX・UIデザイン	デジタルコンテンツのインターフェイスとしての考え方を学び、Webコンテンツにおける動的なインフォグラフィックの制作を行います。	2前	60		○	○		○	○		
34	○	電子書籍制作実習	電子書籍の規格の一つであるEPUBのオペレーションに特化して学習し、作品制作を行います。	2後	60		○	○		○			
35	○	コンピュータリテラシー	パソコンを利用するための基礎的な活用能力を修得する科目です。OSの基本操作からハードウェアの使用法、周辺機器、メールやインターネット、ビジネスソフトなど、情報社会で活用できる能力を身に付けていきます。 MicrosoftOffice (Word、Excel、PowerPoint)	1前	30	△	○	○				○	
36	○	就職活動リテラシー	ワークシートやグループワークを利用した体験型学習で、楽しみながら就職活動の準備を行います。 ① キャリア(職業人生)を理解して就職活動の動機を得ます。 ② ワークショップ形式で自己分析を行い、就職活動で実際に使えるツール(文章・台本)に仕上げます。 ③ 就職活動に必要な各種情報を得ます。目指す職種や業界を見据えたポートフォリオの研究を行い、それにあったポートフォリオの制作も行います。	1後	30	○	△		○		○		
37	○	業界研究	デザイン業界・印刷業界に限らず、様々な分野のスペシャリストにご来校いただき講義形式で授業を行います。今注目されている最新技術動向や業界の話などポイントとなる情報を整理分析し、デザインのアイデアに生かしていきます。	2後	30	○			○		○		
合計					37	科目	1740 単位 (単位時間)						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件:	試験、提出課題、平常点を加味した成績評価において、全ての科目で「可」以上	1学年の学期区分	2期
履修方法:	学科・クラス毎に定められた時間割に則って履修する。	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。